

水難事故のあらまし

～平成28年中の水難事故と救助活動状況～



岐 阜 県 警 察 本 部

目 次

第1	水難事故の発生状況	
1	概況 -----	1
2	過去10年間の発生状況 -----	2
3	月別発生状況 -----	3
4	場所別発生状況 -----	4
5	態様別発生状況 -----	5
6	曜日別発生状況 -----	6
7	原因別発生状況 -----	6
8	年齢別発生状況 -----	7
9	子ども（中学生以下）の水難事故発生状況 -----	8
10	高齢者（65歳以上）の水難事故発生状況 -----	9
11	居住地別事故者数 -----	10
第2	水難救助活動の状況	
1	出動状況 -----	10
2	救助事例 -----	11
3	水難救助訓練実施状況 -----	11
4	小型船舶操縦士の養成 -----	12
第3	その他	
1	水上バイク等の事故防止対策 -----	12
2	水難事故防止広報活動 -----	13

表 紙 写 真
美濃市長良川における警察・消防等合同による水難救助訓練
(平成28年5月撮影)

第1 水難事故の発生状況

1 概況

[平成28年中の岐阜県内における水難事故の発生状況]

発生36件（前年比+4件）、事故者38人（前年比+4人）

[事故者の内訳]

- 死亡 25人（前年比 +8人）
- 行方不明 0人（前年比 -1人）
- 負傷 3人（前年比 -2人）
- 無事救助 10人（前年比 -1人）

[主な特徴]

- 前年に比べ発生件数、事故者数ともに増加
- 発生件数全体の約61%（22件）が7月～8月の夏期シーズンに集中
- 発生件数全体の約89%（32件）が河川で発生、うち約31%（10件）が板取川で発生
- 魚釣り・魚取り中の事故が最多（12件、前年比-1件）
- 高齢者（65歳以上）の事故が増加（18人、前年比+7人）し、事故者総数の約半数を占める

[水難事故の発生状況(前年比)]

区分 年別	発生件数 (件)	事故者数(人)					
		死亡	行方不明	救出救助			
				重傷	軽傷	無事救助	
平成28年	36	38	25	0	0	3	10
平成27年	32	34	17	1	3	2	11
増減	4	4	8	-1	-3	1	-1



小型無人機【ドローン】を活用した救助訓練（長良川）

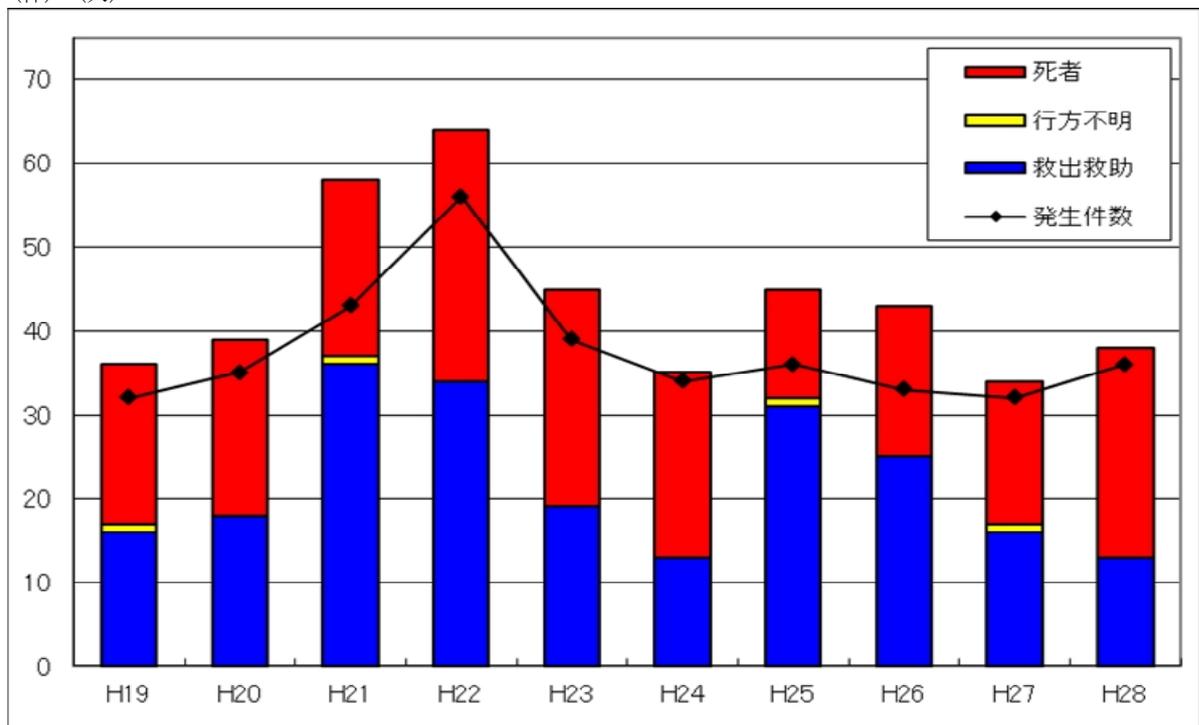
2 過去10年間の発生状況

- 前年に比べ、発生件数、事故者数ともに増加した。

[過去10年間の発生状況]

区分 年別	発生件数 (件)	事故者数(人)			
		死亡	行方不明	救出救助	
平成19年	32	36	19	1	16
平成20年	35	39	21		18
平成21年	43	58	21	1	36
平成22年	56	64	30		34
平成23年	39	45	26		19
平成24年	34	35	22		13
平成25年	36	45	13	1	31
平成26年	33	43	18		25
平成27年	32	34	17	1	16
平成28年	36	38	25		13

(件) (人)



3 月別発生状況

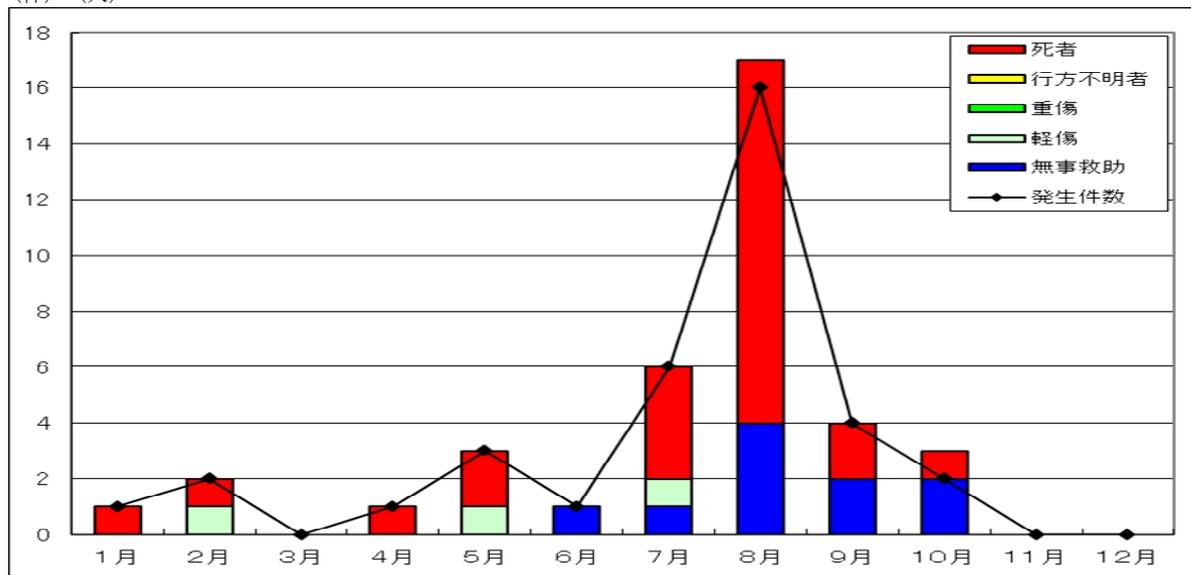
○ 7月～8月の夏期シーズンの発生が、22件（前年比+4件）で全体の約61%を占めている。

事故者数は23人（前年比+3人）で、内訳は、死亡17人（前年比+9人）、行方不明0人（前年比±0人）、救出救助6人（前年比-6人）であった。

[月別発生状況]

区分 月別	発生件数 (件)	事故者数(人)					
		死亡	行方不明	救出救助			
				重傷	軽傷	無事救助	
1月	1	1	1				
2月	2	2	1			1	
3月							
4月	1	1	1				
5月	3	3	2			1	
6月	1	1					1
7月	6	6	4			1	1
8月	16	17	13				4
9月	4	4	2				2
10月	2	3	1				2
11月							
12月							
合計	36	38	25			3	10

(件) (人)



4 場所別発生状況

- 河川での事故が最も多く、32件（前年比+4件）発生し、全体の約89%を占めている。

事故者数は34人（前年比+4人）で、内訳は、死亡22人（前年比+8人）、行方不明0人（前年比-1人）、救出救助12人（前年比-3人）であった。

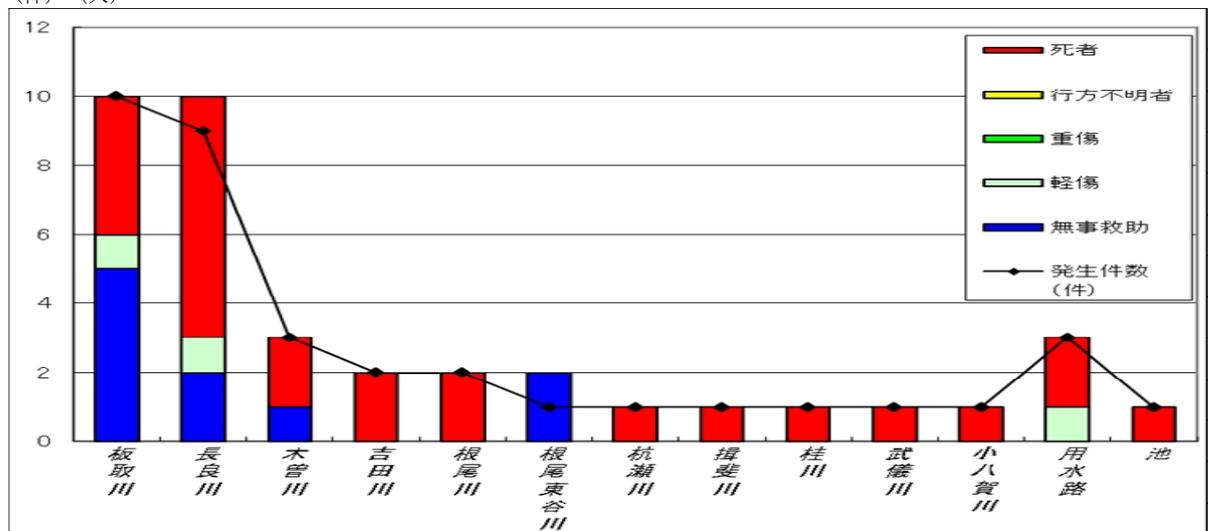
- 河川別では、板取川での発生が最も多く、10件（前年比+7件）発生し、河川全体の約31%を占めている。

事故者数は10人（前年比+6人）で、内訳は、死亡4人（前年比+4人）、行方不明0人（前年比±0人）、救出救助6人（前年比+2人）であった。

[場所別発生状況]

場所別	区分	発生件数 (件)	事故者数(人)					
			死亡	行方不明	救出救助			
					重傷	軽傷	無事救助	
河川		32	34	22			2	10
板取川		10	10	4			1	5
長良川		9	10	7			1	2
木曾川		3	3	2				1
吉田川		2	2	2				
根尾川		2	2	2				
根尾東谷川		1	2					2
杭瀬川		1	1	1				
揖斐川		1	1	1				
桂川		1	1	1				
武儀川		1	1	1				
小八賀川		1	1	1				
用水路		3	3	2			1	
池		1	1	1				
合計		36	38	25			3	10

(件) (人)



5 態様別発生状況

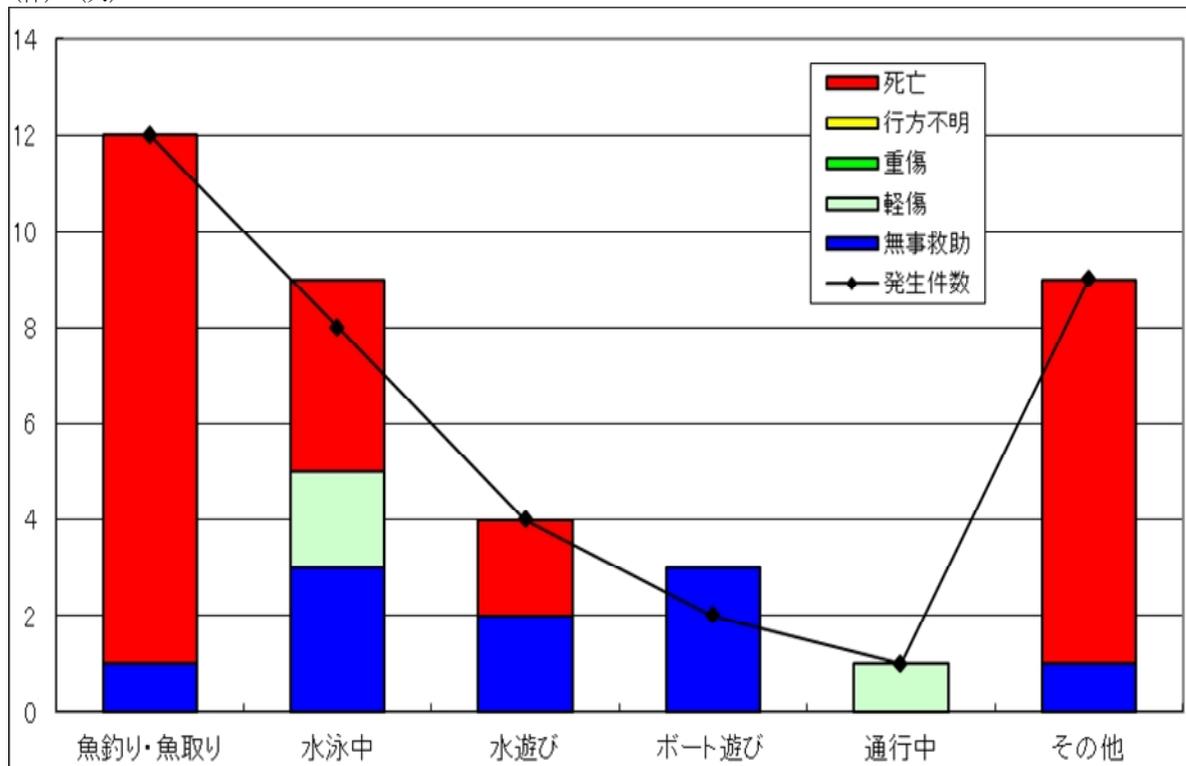
- 魚釣り・魚取り中の事故が最も多く、12件（前年比－1件）発生し、全体の約33%を占めている。

事故者数は12人（前年比－1人）で、内訳は、死亡11人（前年比＋5人）、行方不明0人（前年比－1人）、救出救助1人（前年比－5人）であった。

[態様別発生状況]

区分 態様別	発生件数 (件)	事故者数(人)					
		死亡	行方不明	救出救助			
				重傷	軽傷	無事救助	
魚釣り・魚取り	12	12	11				1
水泳中	8	9	4			2	3
水遊び	4	4	2				2
ボート遊び	2	3					3
通行中	1	1				1	
その他	9	9	8				1
合計	36	38	25			3	10

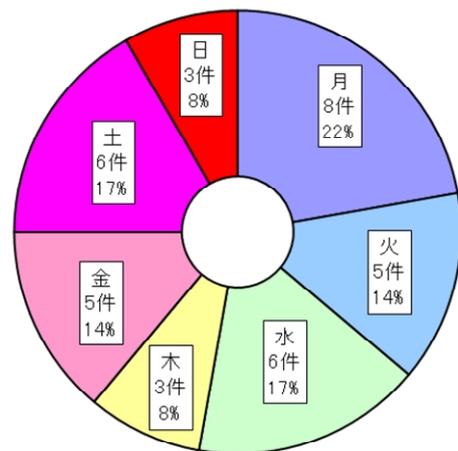
(件) (人)



6 曜日別発生状況

- 日曜日の発生が3件（前年比－5件）と大きく減少した。
月曜日の発生が8件（前年比＋3件）と最も多く、全体の22%を占めている。
- 平成28年は、平日においても各曜日平均して発生した。

[曜日別発生状況]



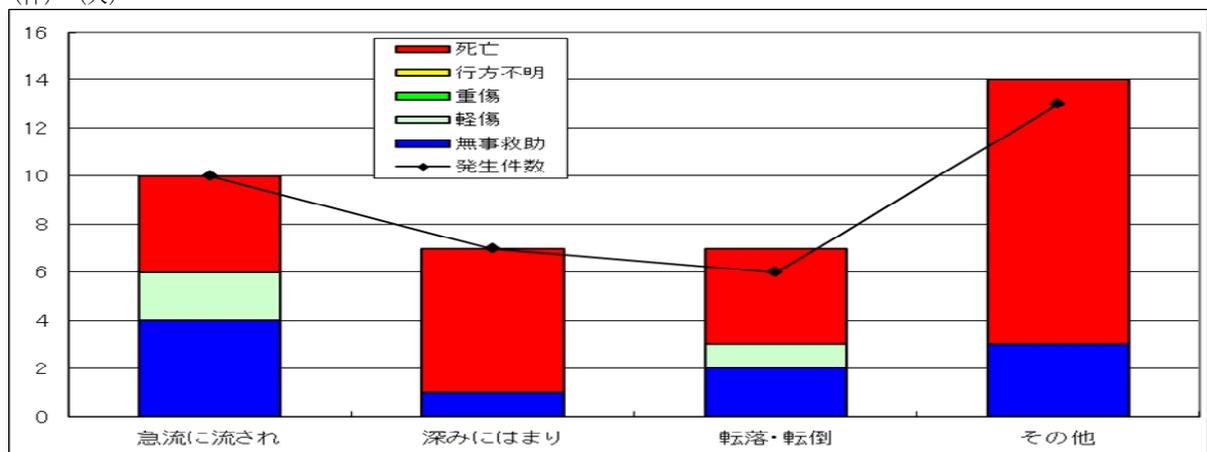
7 原因別発生状況

- 急流に流される事故の発生が、10件（前年比＋3件）10人（前年比＋2人）と最も多い。
事故者数の内訳は、死亡4人（前年比＋1人）、行方不明0人（前年比±0人）、救出救助6人（前年比＋1人）であった。

[原因別発生状況]

区分 原因別	発生件数 (件)	事故者数(人)					
		死亡	行方不明	救出救助			
				重傷	軽傷	無事救助	
急流に流され	10	10	4			2	4
深みにはまり	7	7	6				1
転落・転倒	6	7	4			1	2
その他	13	14	11				3
合計	36	38	25			3	10

(件) (人)



8 年齢別発生状況

- 65歳以上（高齢者）の事故が18人（前年比+7人）と最も多く、全体の約47%を占めている。

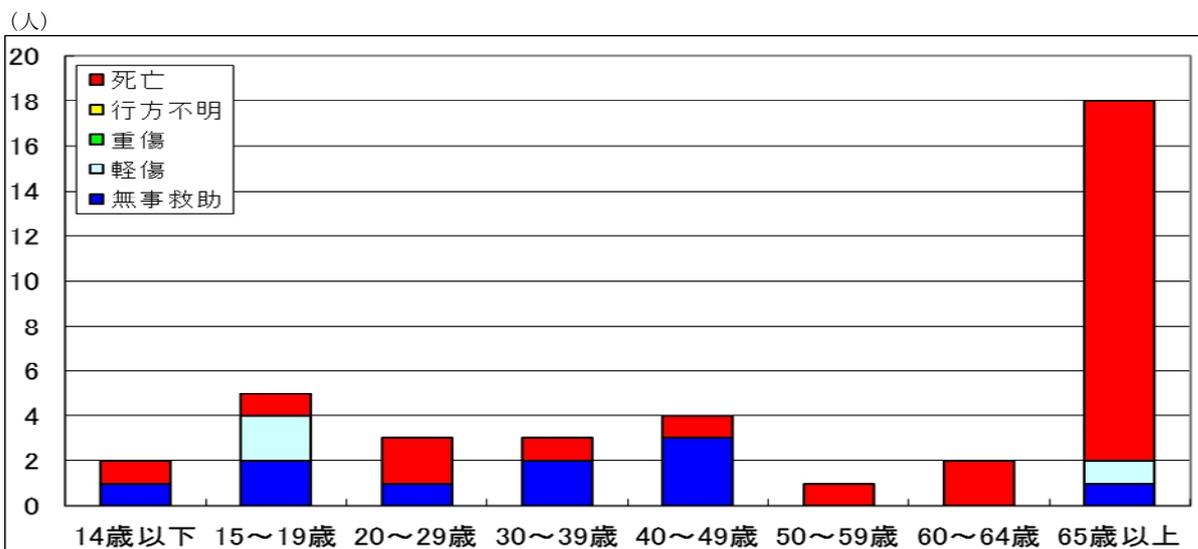
事故者数の内訳は、死亡16人（前年比+9人）、行方不明0人（前年比-1人）、救出救助2人（前年比-1人）であった。

次いで、15～19歳の事故が5人（前年比+2人）と多く、全体の約13%を占めている。

事故者数の内訳は、死亡1人（前年比-1人）、行方不明0人（前年比±0人）、救出救助4人（前年比+3人）であった。

[年齢別発生状況]

区 分 年 齢 別	事 故 者 数 (人)					
		死亡	行方不明	救出救助		
				重傷	軽傷	無事救助
14歳以下	2	1				1
15～19歳	5	1			2	2
20～29歳	3	2				1
30～39歳	3	1				2
40～49歳	4	1				3
50～59歳	1	1				
60～64歳	2	2				
65歳以上	18	16			1	1
合 計	38	25			3	10



9 子ども（中学生以下）の水難事故発生状況

○ 子ども（中学生以下）の事故の発生が、2件（前年比－4件）2人（前年比－4人）で、発生件数、事故者数ともに減少した。

事故者数の内訳は、死亡1人（前年比－3人）、行方不明0人（前年比±0人）、救出救助1人（前年比－1人）であった。

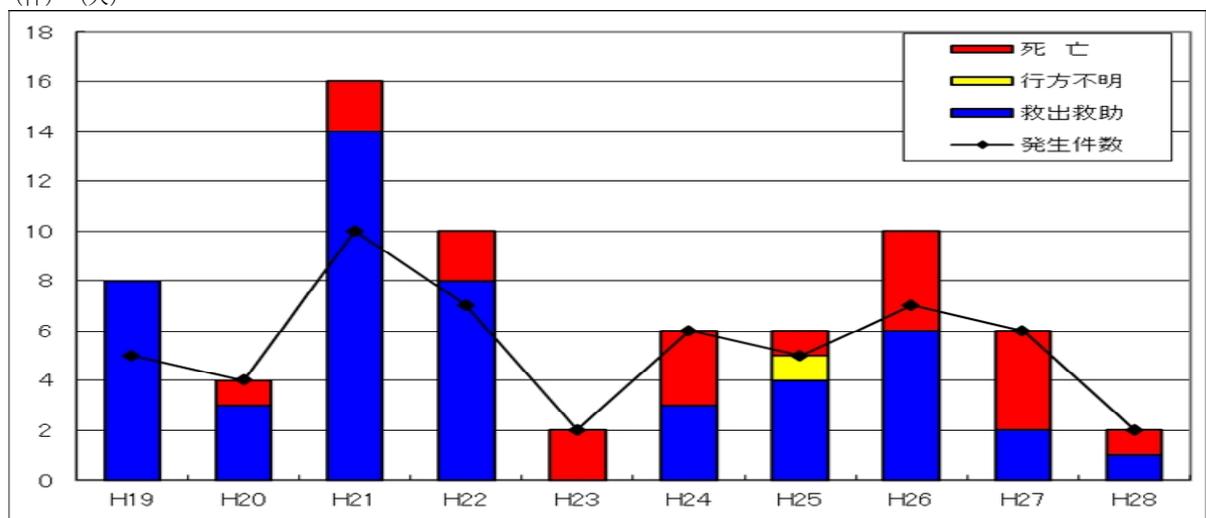
[子ども（中学生以下）の態様別水難事故発生状況]

態様別	区分	発生件数 (件)	事故者数(人)		
			死亡	行方不明	救出救助
水遊び中		1	1	1	
水泳中		1	1		1
合計		2	2	1	1

[過去10年間における子供（中学生以下）の水難事故発生状況]

年別	区分	発生件数 (件)	事故者数(人)		
			死亡	行方不明	救出救助
平成19年		5	8		8
平成20年		4	4	1	3
平成21年		10	16	2	14
平成22年		7	10	2	8
平成23年		2	2	2	
平成24年		6	6	3	3
平成25年		5	6	1	4
平成26年		7	10	4	6
平成27年		6	6	4	2
平成28年		2	2	1	1

(件) (人)



10 高齢者（65歳以上）の水難事故発生状況

- 高齢者（65歳以上）の事故の発生が、18件（前年比+7件）18人（前年比+7人）で、発生件数、事故者数ともに増加した。

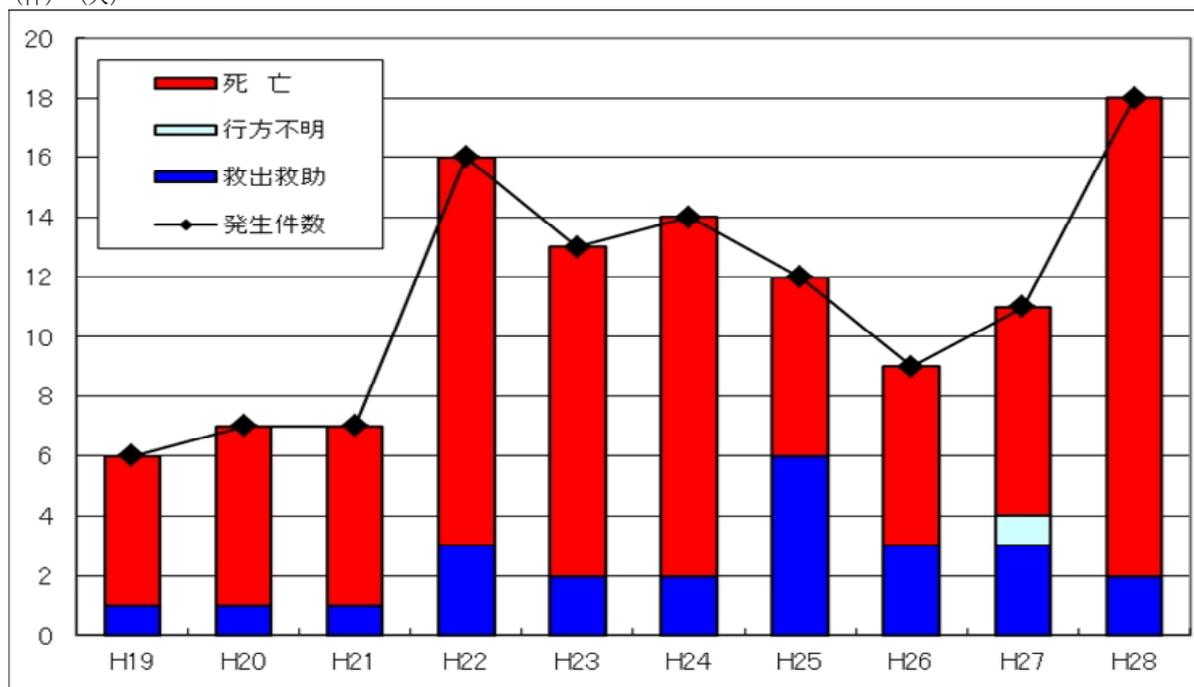
事故者数の内訳は、死亡16人（前年比+9人）、行方不明0人（前年比-1人）、救出救助2人（前年比-1人）であった。

- 事故態様については、18件中、11件が魚釣り・魚取り中の事故であった。
- 発生件数、事故者数、死亡が過去10年間で最も高い数値となった。

[過去10年間における高齢者（65歳以上）の水難事故発生状況]

年 別 区 分	発生件数 (件)	事 故 者 数 (人)			
		死 亡	行方不明	救出救助	
平成19年	6	6	5		1
平成20年	7	7	6		1
平成21年	7	7	6		1
平成22年	16	16	13		3
平成23年	13	13	11		2
平成24年	14	14	12		2
平成25年	12	12	6		6
平成26年	9	9	6		3
平成27年	11	11	7	1	3
平成28年	18	18	16		2

(件) (人)



11 居住地別事故者数

- 事故者を居住地別にみると、県内居住者が21人（前年比+1人）と最も多く、次いで愛知県居住者が16人（前年比+6人）、三重県居住者が1人（前年比-1人）であった。

事故者は全て東海三県（岐阜県、愛知県、三重県）の居住者であった。

[居住地別事故者数]

区 分 県 別	事 故 者 数 (人)					
		死者	行方不明	救出救助		
				重傷	軽傷	無事救助
岐 阜 県	21	18			1	2
愛 知 県	16	7			2	7
三 重 県	1					1
合 計	38	25			3	10

第2 水難救助活動の状況

1 出動状況

- 水難救助活動に、警察官が延べ568人、消防署(団)員が延べ868人出動した。
○ 県警及び県防災のヘリコプターが、14件の事故に対し延べ25回、警察・消防等の舟艇が、7件の事故に対し延べ44回出動した。

区 分 年 別	発生件数 (件)	出動状況 (人)		へり出動		舟艇出動	
		警察官	消 防	件数	回数	件数	回数
平成28年	36	568	868	14	25	7	44
平成27年	32	414	360	4	8	5	16
増 減	+4	+154	+508	+10	+17	+2	+28

2 救助事例

日 時	場 所	状 況
5月3日（火）	美濃市 長良川	遊泳中、急流に流されて溺れた事故者（男性1人）に、アウトドアイベントでカヌーの指導に訪れていた男性が気づき、川岸に引き上げ救助した。
9月3日（土）	関市 板取川	川を泳いで横断中、急流に流されて溺れた事故者（男性1人）に、周囲の遊泳者が気づき、川岸に引き上げ、直ちに蘇生措置（胸骨圧迫）を行うなどして救助した。

3 水難救助訓練実施状況

○ 県内には、長良川、木曾川、揖斐川の三大河川をはじめ、ため池や農業用水などが数多く点在している。

機動隊及び各警察署では、水難事故に対して迅速かつ的確な救助活動を行うため、独自又は消防機関等と合同で水難救助訓練を実施した。



舟艇取扱訓練



舟艇組立訓練



救急法訓練



アクアラング訓練

4 小型船舶操縦士の養成

- 水難事故の発生時において、舟艇を活用した水難救助活動を迅速的確に実施するため、水難救助用の小型船舶が配備されている警察署や事故者の捜索等に当たる機動隊の警察官を対象に「二級小型船舶操縦士免許講習」を受講させている。



舟艇操縦訓練

第3 その他

1 水上バイク等の事故防止対策

- レジャーの多様化、アウトドアスポーツの普及により、河川の利用環境は変化してきており、遊泳者や釣り人等の第三者を巻き込んだレジャー事故の発生を防止するため、関係機関・団体と連携し、広報啓発用看板の設置や河川のパトロールを実施するなどの活動を推進した。
- 平成28年中、水上バイクによる事故が1件発生し、2人が死亡、2人が負傷している。

【事故概要】

6月12日（日）羽島市内の木曾川で、女性が操縦する水上バイクが、前方で航行中のゴムボートに衝突し、同ボートに乗船していた4名を死傷させた。

〔過去5年間における水上バイク等の事故発生状況〕

区分 年 別	発生件数 (件)	事 故 者 総 数 (人)		
		死者	負傷	救出救助
平成24年	1	1	1	
平成25年	3	3	3	
平成26年	3	4	4	
平成27年	0	0		
平成28年	1	4	2	

